



「拵」とは

日本刀の外装のこと。

刀身を納める鞘、茎を納める柄、柄を握った際に手が刀身の方へ滑らないように施す鐔で構成されています。拵を飾る「刀装具」は、作者や時代によってさまざまな意匠が考案されました。

太刀 銘 来国俊
附 金梨子地萬草唐草蒔絵衛府太刀拵

刀身 刃長 78.5cm 反り 3.0cm
鍛造・庵棟・中鋒
小板目肌、直刃に小乱れ交じる
鎌倉時代（14世紀）

拵 全長 113.6cm
大正8年（1919）

龍平翁が
特に愛蔵した刀
といわれます。

来国俊は京都の刀工で、作刀の中に正和2年（1313）や文保2年（1318）の年紀のあるものが現存するため、その活躍期は鎌倉時代後期頃とされます。太刀・短刀ともに数多く伝存し、作風も同時代の備前刀のような華やかな刃文でなく、練を引いたような直刃を得意としました。造込みも細身で優美なものが多く、豪壮な姿のものは少ないです。

この太刀は反りが深く、左右均整のとれた形が烏居の笠木と似通うところから烏居反り、また整った上品な太刀姿は京反りと呼ばれます。付属する衛府太刀拵は萬草唐草平拵が深い、総金具は金無垢に萬草唐草が高彫されます。柄は見事な白鮫皮で包み、鞘は金梨子地に萬草を蒔絵にし、唐草文を配しています。鐔に「応貴齋 一陽斎梅田寛光龍形之」の刻銘が見られます。寛光は明治から大正にかけて躍動した金工師で、村山龍平翁の依頼で制作したものです。

※ 掲載の刀・拵はすべて香雪美術館の所蔵品です



◆ 短刀 銘 村正（部分）



◆ 剣 銘 天照皇太神宮奉納御剣 月山貞勝謹奉 大正十二年二月日（部分）

刀剣の鑑定が得意であった父の影響もあり、刀剣や刀装具などの美術工芸品にも造詣が深く、蒐集家として、日本の優れた美術品の海外流失を危惧し国の宝を後世に残すためにこれらを買集めました。

今回の展覧会は龍平翁が蒐集し、愛でた名刀や手に入れた刀のために造らせた拵（こしらえ）などを香雪美術館よりお借りして展示します。

その後生まれ育った田丸のため、私財を投じ、寄付をして田丸城の町有化の支援を行うなど、町の発展に貢献しました。

刀剣の鑑定が得意であった父の影響もあり、刀剣や刀装具などの美術工芸品にも造詣が深く、蒐集家として、日本の優れた美術品の海外流失を危惧し国の宝を後世に残すためにこれらを買集めました。



むらやまりょうへい 村山龍平翁

寛永3年（1850）伊勢国田丸生まれ
紀伊藩旧田丸藩に仕えた旧士族

明治12年（1879）朝日新聞社を創設

大正4年（1915）第1回全国中等学校
体育野球大会（現・甲子園大会）を開催し、始球式を務める

玉城町名誉町民である村山龍平は、伊勢国紀

州藩田丸領（現玉城町）出身で江戸時代後期に

武士の家に生まれ、田丸城久野家の城勤めをし

ていました。

明治維新後は一家総出で大阪に出て、商工会

議所の議員を務め、その後朝日新聞社を創業。

文明開化・近代化の時代は、その発想力と行動

力をもって『朝日』を世界に冠たる大新聞に育

てました。

その後生まれ育った田丸のために、私財を投

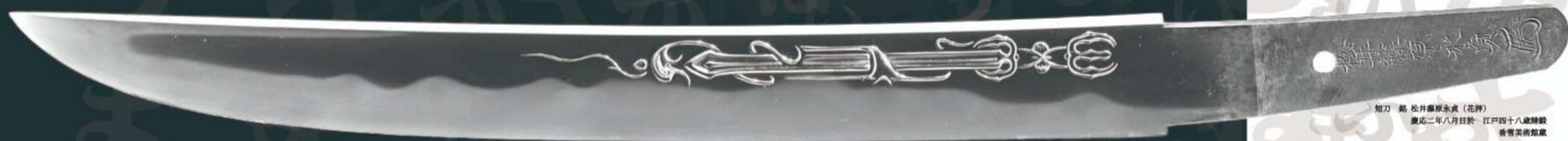
じ、寄付をして田丸城の町有化の支援を行う

など、町の発展に貢献しました。

玉城町制 70 周年記念特別展

名^{katana}刀へのいざない

—— 村山龍平翁を魅了した刀剣の世界 ——



2025 11/22 土 ~ 12/14 日

■入館料 / 無料

主催 / 玉城町、玉城町教育委員会
<https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/>

■開館時間 / 9:00 ~ 16:00

協力 / 公益財団法人香雪美術館 後援 / 朝日新聞社
<https://www.kosetsu-museum.org/>

短刀 銘 松井藤原永貞（花押）

慶応二年八月日於 江戸四十八歳精鍛
香雪美術館蔵

村山龍平記念館

（玉城町教育委員会事務局内）

三重県度会郡玉城町田丸 114-1

TEL 0596-58-8212

